

1 はじめに

今年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症の拡大で、活動が実施できないことや制限されることが多かった。しかし、その中でも全校児童が集まる活動や、他学年との交流を短時間で行ったり、距離を取ったりすることで実施することができた。制限がある中で、今年度実施できた活動を報告する。

2 実践内容

(1) あいさつ運動

コロナ禍で、学校でも児童同士の距離を取ったり、大きな声を出すことが制限されたりなどの生活様式に児童も慣れてきた。登校中の児童の様子を見ると、あいさつが聞こえず、下を向いて歩く姿が多い。そのような状況に気付いた運営委員で、あいさつを活性化するための計画を考え、運営することになった。

ア あいさつ集会

全校児童に対して、挨拶や学校のきまりなどを話す集会を行った。運営委員会の児童が学校のきまり（廊下の歩き方、あいさつの仕方、職員室の入り方等）には何があるか、守ってもらいたいきまりは何かを話し合いながら、どんな劇をすればよいのか考えた。本番では、低学年にも分かりやすい発表をすることができた。



イ あいさつ週間

「目指せ!!あいさつ名人」のカードを使い、運営委員会の児童があいさつができた児童を各クラスに聞きに行った。4段（地域の方に言えた）、名人（いつでも、誰にでも、自分から、大きな声で、言えた）、超名人（相手を見てプラスひとことが言えた）の合計人数を出し、お昼の放送で発表をした。少しずつあいさつへの意識が高まり、超名人を目指してあいさつしている児童が見られた。



(2) 創立50周年記念集会

コロナウイルスのため延期されていた創立50周年記念集会を今年度行った。今までの金沢小の歴史について調べ、全校児童が参加できるように、児童同士で話し合い、どのような工夫をすればよいのか自分たちで考え実施することができた。また、6年生の運営委員会の児童が50周年宣誓として、6年間の思い出を呼びかけ形式で行った。6年間のできごとや、中学校に向けての言葉を児童自身で考えることで、学校に対する感謝の思いを伝えた。



3 成果と課題

- ・活動が制限されている中でも、児童が自分たちにできる活動を考えて、実施することができた。来年度も引き続き、実践していきたい。
- ・あいさつ運動は期間を決めての実施だったが、成果が表れてきたため、継続していきたい。